

## 平成25年度事業報告

我が国の景気は、平成24年末を底に年前半は回復軌道を辿りました。第二次安倍内閣の「大胆な金融緩和」に触発された円高是正や株価の急回復により、輸出が持ち直すとともに消費者マインド好転によって個人消費が上向き、加えて「機動的な財政運営」による緊急経済対策から公共投資が拡大し、景気浮揚を牽引しました。一方年後半は、新興国経済の予想外の減速などから外需が停滞し輸出は伸び悩みましたが、平成26年4月に実施される消費増税前の駆け込み需要によって、個人消費や住宅投資が下支えとなり、景気は緩やかな回復を続けました。

就業構造では、人口減少や少子高齢化に伴い労働力人口は徐々に低下する一方、高年齢者雇用確保措置が義務化された効果によって、55歳から64歳の就業者に占める割合は上昇しています。団塊の世代が労働市場から本格的な引退過程に入り、活動の場を地域へ移すこととなるため、これらの人が活躍できる環境の整備が喫緊の課題であります。

このような情勢において、国及び地方公共団体の高齢社会対策の重要な役割を担ってきたシルバー人材センターは、高齢法に定められた「高年齢者の就業の機会を確保しもって高齢者の福祉の増進に資することを目的」とした公益法人であり、当センターでは急速に高齢化が進行する中で魅力あるシルバー人材センター事業の展開に努め、自治体や他の関係機関とも連携・協働し、就業開拓や就業機会の創出を積極的に行ってまいりましたが昨年度に比べ実績が減収いたしました。

公益社団法人として、より公益性、より透明性が求められていく中、将来を見据え確かな経営と活力ある高齢社会の構築を目指し今後も邁進いたします。

事業実績等の詳細については別頁で記載のとおりで、会員数、受注件数、契約金額等については下記のとおりです。

会 員 数	436 人	(平成24年度実績	478 人)
受 注 件 数	4,451 件	(平成24年度実績	4,665 件)
就 業 実 人 員	449 人	(平成24年度実績	458 人)
就 業 延 人 員	40,997 人	(平成24年度実績	42,719 人)
就 業 率	103.0 %	(平成24年度実績	95.8 %)
契 約 金 額	249,622,153 円	(平成24年度実績	252,863,196 円)

## I 普及啓発事業

シルバー事業の意義と仕組み等を市民に対して周知を図るため、市広報・社協だよりに掲載、センター広報誌の発行、各イベントへの参加、会員によるポストカードやリーフレット等のポスティング活動を実施し、また、ケーブルテレビを利用し継続的に入会促進やシルバー事業の仕組み等を放送、会員の口コミによる加入促進に努めシルバー事業の活動等の情報提供を行い啓発活動に努めました。

## II 安全・適正就業推進事業

### (1) 安全就業

安全・適正就業委員会による対策会議を7月と2月の2回開催し、委員会による就業現場パトロールの実施及び本所・各支所の職群グループ研修会議を開催し、事業部会・安全適正就業委員会を中心に、事故事例をもとに事故原因や再発防止についてや保護具の着用を徹底するよう指導いたしました。また、県連合会開催の安全就業担当者研修会へ事業部会1名、グループリーダー2名が出席いたしました。

運転業務や就業現場往復途上における交通事故防止を目的とし、自動車学校での運転適性講習会を4月と11月の2回開催し、安全に係る啓発活動として「安全就業だより」年3回・ハンドブック「安全運転のための十ヶ条」・「酔いの怖さを侮るな！」を全会員に配布し、安全意識高揚に努め、また、「事故撲滅キャンペーン」と題し、「安全就業だより」により予め全会員へ周知し、期間中（6月～12月）無事故の地区を対象に粗品を進呈する取り組みを実施しましたが、18地区中8地区で事故が発生してしまいました。

誠に遺憾ながら、本年度は次のような事故が発生しました。

### 【傷害事故】

発生月	場 所	内 容
5月	北部支所	清掃作業でゴミ出し途中、躓いて転倒し右肩を負傷した。
6月	本 所	除草作業中、側溝で転倒し左大腿骨外転子を骨折した。
8月	本 所	剪定作業中、脚立が倒れそうになったので飛び降りたところ第3腰椎を骨折した。
8月	本 所	除草（山草）作業中、足を滑らせ約5m滑落し側溝で顔面を強打し救急車で搬送された。

### 【物損事故・除草】

発生月	場 所	内 容
6月	本 所	除草作業中（ナイロンコード使用）、小石を飛散させ発注者所有車両のリアガラスを破損、またボディに傷をつけた。
9月	本 所	除草作業中（ナイロンコード使用）、小石を飛散させ保育所のサッシガラスを破損させた。
10月	本 所	大規模林道除草作業中、小石を飛散させ通行車両の運転席側ガラスを破損させた。

### 【物損事故・車両等】

発生月	場 所	内 容
5月	南部支所	マイクロバスを駐車場で後退中、バンパーが石に接触し破損させた。
8月	本 所	センター所有の1トンドンプで本線を走行中、駐車場から出てきた軽自動車と接触した。
10月	本 所	センター所有の軽トラックで三叉路を右折し本線に出たところ、走行中の軽トラックと接触した。
10月	本 所	センター所有の軽トラックで伐木を運搬中、山道下り坂カーブで砂利によりスリップし法面で右バンパーを破損させた。
10月	本 所	センター所有の1トンドンプで集草中、発注者宅のマンホールに上がったところ、樹脂製のマンホールの蓋を破損させた。
11月	本 所	センター所有のバックフォーで刈り草を集草中、穴に填まって横倒しとなりレッカーで吊上げた。
1月	本 所	学校給食配送業務中、対向車がセンターラインを大きく割り込んで来たため、サイドミラーが接触し破損した。
2月	南部支所	センター所有のチップシュレッダをアルミブリッジを使用し搬送車から降ろしている際に、バランスを崩し転落破損した。

### (2) 適正就業

適正就業については、地籍調査の測量業務や介護施設での運転業務において、発注者や就業会員との協議を重ね直接雇用に移行させました。

また、請負契約事務における見積書・請書の記入方法や、消費税率引き上げ分の転嫁方法や運用について周知を図りました。

### Ⅲ 就業開拓事業

当該年度の事業実績は、総務部会・普及啓発部会・事業部会により家庭・企業等を訪問し、地域社会の就業ニーズの把握・広報、また就業機会の掘り起しや市行政に対し就業の開拓に努めましたが、受託件数 4,451 件と昨年度に比べて 214 件の減となり契約金額では 249,622,153 円対前年度比 98.7%金額にして 3,241,043 円の減収となりました。

契約金額を公民区別構成で比較しますと、【公共】 70,186,450 円（全体の 28.1%）対前年度比較（2.2%増）【民間企業】 99,189,773 円（全体の 39.7%）対前年度比較（1.8%減）【一般家庭】 74,776,825 円（全体の 30.0%）対前年度比較（5.7%減）【独自事業】 5,469,105 円（全体の 2.2%）対前年度比較（42.6%増）となり、民間企業及び一般家庭では減収となりましたが、公共及び独自事業は増収となっております。

さらに、職群別に大別してみますと【一般作業群】 119,082,110 円（47.7%）【技能群】 53,347,445 円（21.4%）【サービス群】 31,251,643 円（12.5%）【折衝外交群】 19,700,603 円（7.9%）【管理群】 19,569,895 円（7.8%）【技術群】 6,547,699 円（2.6%）【事務群】 122,758 円（0.1%）となっております。

### Ⅳ 企画提案方式による事業

#### 【シルバーアシスト事業】

事業実施 2 年度目に入り、市広報誌への広告掲載や宣伝用ポストカードの作成・配布等、広報活動に注力した結果、当該事業に対する市民の認知も高まり、新規発注者またリピーターも増加しました。初年度の実績を踏まえ、利用対象者及び対象地区範囲の拡充を行い、更なるサービス内容の充実を図りました。

#### 【耕作放棄地を有効活用した安全・安心・おいしい野菜作り事業】

農業者の高齢化、担い手不足、鳥獣被害等により耕作放棄地が増大する中であって、小規模ではありますが約 12a の農地を借り受け、無（減）農薬で栽培した季節の新鮮な野菜を、常設店舗「よりんさい」での販売で地元消費者へ届け、農地の保全や地産地消を推進いたしました。

#### 【「おもてなし」の心と「美しい」まちづくり事業】

昨今、観光客が減少傾向にあり、市の活性化に向けて知名度アップと交流の拡大のため、地域の観光資源を活用する等多様な施策の一環で、「おもてなし拠点～よりんさい」では、会員生産の新鮮野菜等を利用した地産地消の軽食コーナーや、憩いの場のスペースを設置することにより、観光案内所としての機能だけでなく、観光客と市民の集う交流の場として積極的な展開を図りました。

## V 相談、情報提供

入会説明会を毎月1回開催し、センターの基本理念や事業内容等の情報提供を行いまた、会員相互の連帯感の高揚、会員による自主的な運営参加を図るために、職群班リーダー会議、各地区において地域班会議を実施しました。

今年度の会員数は、入会者46人に対して退会者が88人と前年に比べ42人の減員であり、年度末会員数は男性317人、女性119人の合計436人でした。

### 【入退会状況】

入会者46人のうち、男性は34人、女性は12人平均年齢66歳であり、入会動機は、『経済的』22人(47.8%)がトップで、続いて『健康維持』12人(26.1%)『社会参加』9人(19.6%)『その他』3人(6.5%)の順となっています。

退会者は、男性65人、女性23人平均年齢71歳で、退会の動機は大半が病気を理由に退会されています。

## VI 社会参加活動の推進

会員61名の参加による鵜飼乗船場周辺環境整備のボランティア作業、また、普及啓発促進月間中の「シルバーの日」では、会員238名の参加により、保育所や小学校、コミュニティセンター、公園など公共施設の除草や剪定、清掃等の効率的なボランティア活動を実施し、老人福祉施設等への慰問は、「すずらんの会」の皆さんが5箇所において舞踊や大道芸を披露されました。

## VII 無料職業紹介の実施

臨時的かつ短期的な雇用による就業及び軽易な業務を希望する高齢者を対象に無料職業紹介事業を実施しました。

## VIII 財源確保及び組織体制改革

センターは公共性・公益性のある公益社団法人で、行政の一翼を担う団体であることから、行政機関との連携の強化を図り、受注確保並びに補助金の必要性を提唱しまた、センター事業の安定的な事業運営の継続性を維持していくため、組織体制の改革、未収債権の早期回収や経常費用の節減に努めました。

## IX 業務執行

公益法人として、理事会並びに各部会・委員会等を開催するとともに、毎月職員連絡会議を実施し、関係法令を遵守した組織及び円滑な事業運営を推進するため、情報交換と課題の解決・調整に努めました。

## X 事業報告の附属明細書について

平成25年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。